

らんこし作家デビュープロジェクト 2014

ヤコブの梯子の天使たちが運んできてくれたお話し
マルタ・シャガール 枝

ノアック・ケーン 監修
幸若久佳 著



2014
1/17



ヤコブの梯子の天使たちが運んできてくれたお話し
マルク・シャガール 枝

ノアック・ケーン 監修
幸若久佳 著

らんこし作家デビュープロジェクト 2014

はじめに



こんにちは。ようこそ、ここへおいでくださいました。

ルツという町のヤコブの梯子（はしご）でいったりきたりしている天使たちは、2014年正月、旧約聖書研究を天職とする哲学博士ノアック・ケーンに、マルク・シャガールが描いた“枝”のエッセンスをお運びになりました。

ノアは、天使たちから運ばれたエッセンスを、少しのあいだご自分の中で温められてから、2014年1月22日にわたくしに、お聞かせくださいました。「アブラハムの信仰伝承の続きに、シャガール。」というノアの第一声を聞いたとき、わたくしは、とてもびっくりしました。アブラハムさんの信仰伝承の続きに、シャガール？！

きょうは、7かける7プラス1のサバティカルイヤーを迎えるわたくしが家族に向けてひとつ残すものとして、ノアから聞かせていただいたこのお話をさせていただきます。

マルク・シャガールは、どんなに作品が売れなくても、周囲から冷たい非難をされても、葛藤と苦難をとおして、自分自身の根源的土壌に光る真の輝きを信じ、宗派や教義の枠を超えた、純粋で永遠な愛を描く天命を生ききられた画家です。

神さまは、シャガールの“ 枝 ”の絵の現在の解説が、聖書に記されていることに関連づけて案内されていないことを残念に思われて、ノアをお選びになり、そのエッセンスを天使たちに運ばせられたのでしょう。なぜなら、シャガールの“ 枝 ”の絵には、わたくしたちを幸せにしてくれる、直接的でかけがえのないエッセンスが含まれているからです。

それでは、世の解説をはるかに超えたノアのお話しをどうぞお楽しみください！

シャガールの祈りと共に。

金枝である、祖母けいに。

Merry Christmas with Love

幸 若 久 佳

4 october, 2014



目次

はじめに	2
らんこしの川が きれいなのはね、	6
おばあちゃん ☆	8
第一章 らんこし町は黒字よ、ノア。	14
第二章 “ 枝 ”	44
シャガールの言葉	68
マザーのあとがき	74





らんこしの川が きれいなのはね、

らんこしの川が きれいなのはね、

お星さまたちが

ときおり

水浴をなさっているからよ。

アフロディーテ





おばあちゃん ☆

おばあちゃん ☆

わたしは今、北海道のらんこし町という町の、湯里（ゆのさと）の森の中に住んでいます。ここはすべてがとても清くてね、すごいよ。最初住んだときは、自分ばかりが汚れていて、追い出されても、しょうがないと思ったわ。

ここの森の女神は、黒い手袋をはめた白樺のブリギットよ。彼女は、とても美しいわ。

小さな滝壺にはね、名前を呼ぶとアフロディテが来てくれるわ。彼女があらわれるときは、ハーブの音色がするのよ。素敵でしょう？

家から見える大きなお山はね、帽子が好きなのよ。いろんな帽子をかぶって、笑わせてくれるの。天使さんのマネだってするのよ。写真をつけておいたから、見て楽しんでくださいな。

この森は、濃い霧のときがもっとも美しいの。霧の中を歩くとね、過去がぜんぶ消え去って、ノアに会えるわ。ノアは、子ロバのようなユニコーンに乗っているのよ。ユニコーンはね、エデンというお名前よ。おばあちゃん。 ☆



© suikinkutsu

天使さんのマネをする羊蹄山（ようていざん）。

2014.8.17





第 一 章

らんこし町は黒字よ、ノア。

「 ノア ? わたしは、のぞいてみたいな、とずっと思っていたわ。でもきつと無理、と思っていたの。宝石屋さんのことよ。 そうしたらね、天使たちがちゃんと案内してくれたわ。 いったいぜんたい、こんなことってあって？ この森には、宝石がいっぱい落ちているわ！ 冬はいちめんダイヤモンドよ！ あまりにもきれいだったの。それでそのダイヤモンドを食べてみたらね、とても美味しかったわ。 」

それは、それは、良かったですね、くかさん。こんにちは。お元気でしたか。

「 こんにちは、ノア！ こんにちは、エデン！ ありがとう。またお会いできて、とってもうれしいわ。 ノアとエデンは、お元気でしたか？ 」

ええ、元気でしたよ。わたしたちはきのう、エディンバラから帰ってきたばかりです。しかし、この森のオーケストラは、すごいですね。

「 すごいでしょう？ 湯里の森は、野生生物たちのすみかよ。鳥たちの高音、虫たちの低音、風の音、ゆれる木の音。演奏がうまくいくとね、葉っぱたちはシャラシャラシャラと拍手をするのよ。すごいわ。すべてが、調和しているわ。 」

それで、きょうの、あなたの、その、おかつこうは ？

「 あら、ノア。らんこしにはバレエ教室がないから、ここでこうするしかないのだわ。指揮棒がふられたら舞台に出ていかなきゃならないでしょう？ だから準備をして待っているの。」

舞台 ？

「 ええ。その、メープルの切り株の上よ。 」

そうでしたか。それは、びっくりしました。それにしても、きょうは、森にとっても良い香りがしていますね。

「 ええ。 みんながノアとエデンの訪れを喜んでいるのよ。 」

ありがとう。

「 エディンバラは、いかがでしたか ？ 」

今回は『ダ・ヴィンチ・コード』で紹介されたロスリン礼拝堂へ行ってまいりました。おみやげに石もひろってきたのですが、あれっ！ 忘れてしまったかな ？

「 エデンよ！ 食べたといっているわ！ 」

エデンのハラの中 ? エデンのハラ、エディンバラ。

「 わはははははは。 」

二人のあいだに生ずる平和。ノアの背中にある紫がかったピンク色の羽は、なんて美しいのだろう。

ダ・ヴィンチは、イエス・キリストによってはじまった神の国を継承しようとした画家でした。ユダヤ人マルク・シャガールも、ダ・ヴィンチをとっても尊敬していましたね。実はきょうは、この前お話ししたアブラハムの信仰伝承の続きに、シャガールです。わたしはこのお正月に、以前開かれた展覧会で購入したこの画集をみていたのですよ。そしたらね、とても不思議に思ったのですよ。

「 何を？ 」

この絵なのですが、ほら！ “ 枝 ”、とついています。

「 あら、きれいな絵ね！ “ 枝 ”というタイトルなの？ 」

そう。“ 枝 ”です。

「でも、枝は描かれているけれど、枝が主役とは思えないわ。
その“枝”とは、何ですか？」

あなたは、それが何かわかりませんか？

「はい、ノア。わかりません。」

そうです！ それぞれ！ 今のわたしとあなたとのやりとり
がね、聖書のゼカリア書にでてくるのです！

「ゼカリア書？」

そうです！ 旧約聖書の最後からひとつ前の預言書、ゼカリア書です。ゼカリア書第4章。ゼカリアが天の御使いに起こされて『何を見ていたのか。』とたずねられる11節。ゼカリアは、御使いにたずねます。『燭台の右と左にある、これら二本のオリーブの木は何ですか。』また重ねてたずねます。『その二本のオリーブの木の枝先は何ですか。それは二本の金の管によって、そこから油を注ぎ出しています。』御使いは、『これが何かわからないのか。』とたずねかえし、ゼカリアは、『主よ、わかりません。』と答えると、そこで、『特別大事な真理』が宣言される場面です。

「特別大事な真理って？」



シャガールが描いている “ 枝 ” ではないでしょうか。

「 ほんとうに ？ 」

ええ。 あなたは、シャガールがお好きですか ？

「 はい、ノア。わたしの大好きな祖母は、シャガールが大好きでした。 祖母もシャガールの絵のようにぶっとんで、いえ飛翔する人だったのよ。 」

そうですか。それは、素敵なおばあさまですね。

ではそこに座って、お茶をしながらお話しいたしましょうか。
甘いものはある ？

「 ええ、ノア 。 フルーツたっぷりのファンタスティック・オムレツパフェ があるわ。 」

妖精たちが、お茶のお席を用意する。

そこは、いつものわたしたちのお気に入り。

平和の計画が二人のあいだに生ずる。(ゼカリア書第6章13節)

ここは、ティーのおかわりがついてくるのが、いいですね。



エディンバラの森でも、たいていこうして、おかわりのティーポットがついていましたよ。それでは感謝して、いただきます。

「 いただきます。 」

ノアは、ティーにお砂糖とミルクをたっぷり入れるの。でもなぜノアは、そんなに甘いものばかり食べていて、自分の歯が全部残っているのかしら？ 神さまに愛されておられるから ？

シャガールは、聖書の “ 枝 ” を描いているでしょう。

「 聖書の “ 枝 ” ？ そういう “ 枝 ” があるの ？ 」

あるのです！

シャガールはね、なんともうまく、まるでいたずらっこのようにして、聖書のゼカリア書の場面を、“ 枝 ” の絵に利用しているように思えます。それは、ゼカリア書と同じように、絵を見ている人に、『 特別大事な真理を宣言するため 』ではないでしょうか。わたしのこの解釈が間違っているかもしれませんが、わたしは彼のこのトリックを、とても楽しんでいきますよ。



シャガールは1887年、ロシアのヴィテブスクという町の貧しいユダヤ人家庭に生まれました。おじいさんは、ユダヤ教の神父さんです。きっと、信仰深いご家庭だったことでしょう。

シャガールはおじいさんやおばあさん、ご両親と共にユダヤ教教会に通う日々の中で、ユダヤ人としてのごくあたりまえの習慣を身につけながら、聖書を音として聞き、自然と聖書の世界に親しんでいったのではないのでしょうか。シャガールのかよっていた小学校は、ユダヤ人小学校でした。

ユダヤ人は、ほんとうによく聖書を読むのですね。聖書には、天地創造の由来とそこに実際に愛をもって生きた人々の歴史が記されている書物です。ユダヤ人たちは、聖書をとて神聖なものとして写し伝え、人間の永遠の導きとしています。聖書は、神さまが人間にくださった贈りものであり、神さまご自身の意志の表現であり、世界の宝物なのですよ。

ユダヤ教は、『聖書プラス口伝伝承』です。ユダヤ教でいう『聖書』とは、旧約聖書のこと。ユダヤ教の口伝伝承とは、神さまの言葉を日常生活のあらゆる場面にあてはめた遠い昔からの言い伝えです。

ここ北海道のアイヌ民族の人たちの文化も、口伝伝承でした。ユーカリという神謡は、とても美しいです。

「湯里の森には、アイヌの人たちが大好きなシケレベの木がたくさんあるわ。くすりにもなるのよ。」



そういえば、この森にあるあなたのお住まいは、昔、札幌のお医者さんの隠れ家だった家でしたね。お医者さんは、よく知っているのですね、この森がとても身体に良くてことを。ここは空気も、水も、木々も抜群に美しい。目に見えるものすべてよし。森の倍音からだによし。かぐわしい緑の香り心によし。山菜や果実は豊富に実る。虫や小動物たちは、とても愉快です。ここを内緒にしたい気持ちが、よくわかりますよ。

ではここで、シャガールご自身の言葉を紹介いたしましょう。

～ わたしの芸術が家族の生活になんの役割も演じなかったにしろ、かれらの生活とその独自さは、わたしの芸術に大きな影響を与えている。うしろでお祈りははじまり、わたしのおじいさんは祈りの言葉をいうために祭壇の前に招かれていた。彼は祈り、歌い、調子よく繰り返し、またはじめに戻ってくる。わたしの心の中で油しぼりの臼がまわっているようだった。やはり採りたての新しい蜜が、わたしの心の底を流れているようだった。（「MAVIE」マルク・シャガール著 三輪福松・村上陽通訳 美術出版社1965）～

さすが、シャガールですね。聖書に記されている『キーワード』をよく知っています。またそれを常に自分の中に意識しているということが、この言葉からよくわかります。『心の中で油しぼりの臼が』というのは、シャガールの心の中には油しぼりの臼がある、ということですね。



これは、あとで申し上げますが、聖書の中で 『 油 』 とは、『 油注がれた人 』、つまり、『 救世主 』を意味します。そして、『 やはり採りたての新しい蜜が わたしの心の底を流れているようだった。 』とは、『 蜜 』は、『 乳と蜜の流れる土地 』のこと。 出エジプト記第3章8節、モーセが40年かけて荒野の中にイスラエルの民を導いていく、『 神の約束の地のこと 』です。聖書の美しい表現ですね。

「 ノア？ らんこし町も、乳と蜜の流れる土地なのよ。 」

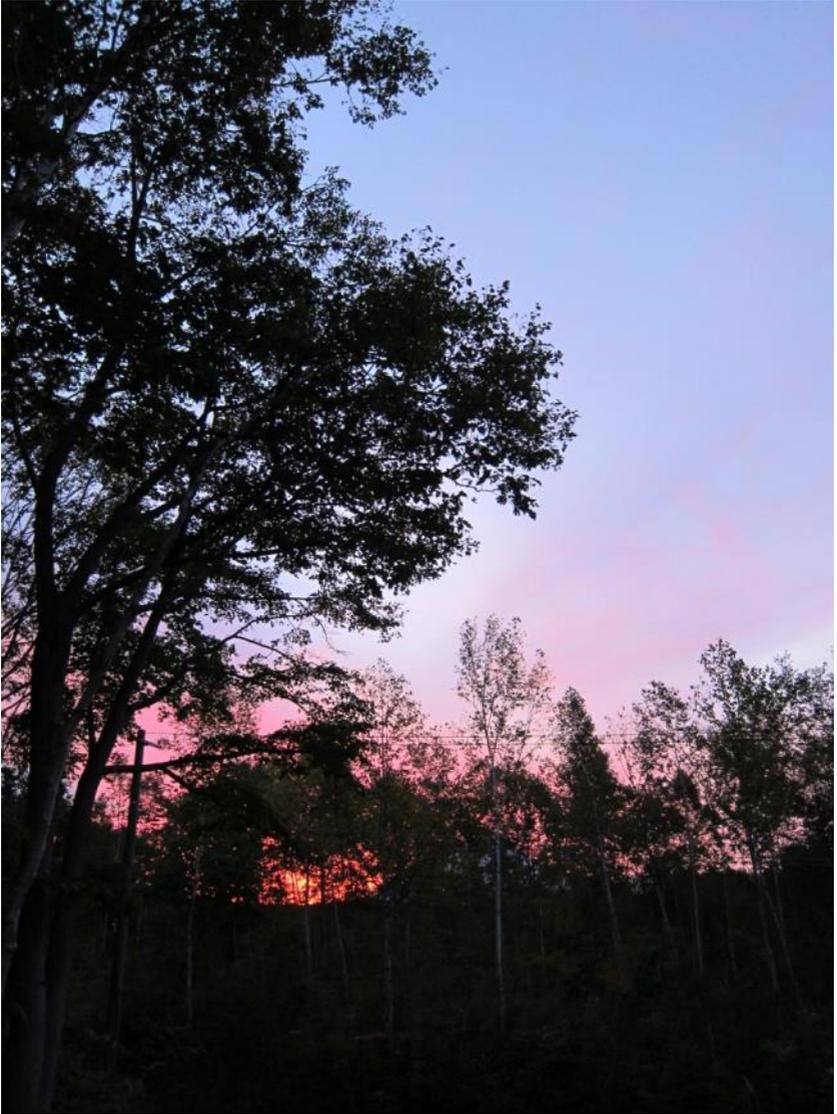
そうですか ？

「 ええ。 だって、空には 毎夜すごい天の川でしょう ？ 天の川は、英語でミルキーウェイよ。それに、湯里の森には、蜜蜂がいっぱいいるわ。 らんこし町は黒字よ、ノア。」

神に恵まれた地だ。

「 ええ。 」

～ ごくごく頃から わたしは聖書のとりこになっていました。それはあらゆる時代を通して、最も偉大なポエジーの源泉であるとずっとおもっていましたし、今もそうおもっています。以来、わたしは生活や芸術の中に聖書を反映させようとしてきま



した。聖書は、自然の反響のようなものです。わたしは、この奥義を伝えようとしてきました。(「CHAGALL」ダニエル・マルシェツォー著 高階秀爾監修 田辺希久子・村上尚子訳 創元社1999)～

『 聖書は自然の反響のようなもの 』というシャガールの感覚は、すごいですね。シャガールは、生涯イディッシュ語を話しておりました。これはユダヤ人の言葉。表記は、ヘブライ文字です。

聖書とは、ただひとり神に義と認められたノアの子孫である、アブラハムの子孫の古代イスラエルが、神の救いの歴史をヘブライ語で書き記したもの。神さまが、イマジティヴな種族である我々人間にむけておくれた贈り物です。

ゆえに、聖書ヘブライ語原典は、とても美しい響きの、豊かな詩的表現にあふれた世界なのです。比喩や言いまわし、愉快なごろあわせがたくさんある。

シャガールは、この “ きわめて洗練された、簡潔な、ヘブライ語原典の聖書世界 ” をそのまま絵にしたのです。しかし世の中にとっては、それは、とても稀有なことだったのです。

ユダヤ人には 『 ユダヤ人意識 』 というのがあってね、それは、自分が 『 ユダヤ的伝統の過去と結びついている 』 という、強い意識です。『 人間が制定した定義を超えた、神の約束の意識 』 があるのです。これがあるっていうことは、やっぱり強いことですね。

ユダヤ人の使命は、この世で神の住まいをつくり、神の言葉を伝えること。声高に語るのではなく、小さき者となって、自らの行動によって、です。古くから言い伝えられているユダヤ人の習慣になっているものはみんな、『神がわたしたちと共にいる』ということのを常に思い出せるようなものになっていました。

たとえば、あなたは昭和39年のお生まれでしたね。『39』という数字は、『神は一なり』のヘブライ語の字数です。あなたはよくシヨールを羽織られますが、ユダヤのお祈りのシヨールには、『神は一なり』という、39のより糸からできた房がついていますよ。

「うれしいわ、ノア。 わたしこれから、シヨールのことを39と呼ぶわ。」

そうです。あなたがシヨールを羽織れば、『39。神は一なり』を思い出すでしょう？ こういうことがね、ユダヤ人の習慣であり、伝統なのです。ではなぜ、わざわざユダヤ人たちは、このようなことを習慣にしているのかと言いますと、

「ノア？ わたし知っているわ。ユダヤの人たちは知っているのよ。ノアのように、“神と共にいる”ということが、一番強いことだとね。」

マルク・シャガールは、ユダヤ人でした。 彼が、他の聖書の絵を描く画家と決定的に異なるところは、彼がユダヤ人であること。そして彼自身が、『 そのユダヤ人としての根源的な土壌に、いつも閃光を求めていた 』ということに尽きるでしょう。彼は、生涯そこから揺らがなかった。すごいことです。

くかさん？ あなたの根源的な土壌といえ、何になりますか？

「 わたしの根源的な土壌といえ、祖母の庭かしら。いつも泥遊びをしていたわ。 ノアは ？ 」



わたしの根源的な土壌といえば、それはわたしの父がわたしにくれた聖書において築かれた、と言ってよいでしょうか。父は、世の中の価値が変わるたいへんな時代に「これを読みなさい。」とって わたしのポケットに入る大きさの聖書を渡してくださいました。わたしは、父が大好きでした。父もまた牧師でしたが、父はいつも言っていましたよ。“ 聖書には、神の言葉が書かれている。” とね。

しかし、神の言葉を言い伝える使命をもったユダヤ民族は、歴史の中で、最も悲劇的な運命にさらされました。中世時代におけるユダヤ人根絶、スペインからの追放、1939年から行われたナチスのユダヤ人大虐殺。シャガールはなんとこの人類にとっても最も過酷なできごとがあったこの時代に、ここに、生きているのです。しかも、人生の成熟期のときに、大虐殺の対象者となって、です。シャガールを語るとき、このことをはずして、彼を語ることは絶対にできない！

1887年、ロシアのヴィテブスクの貧しいユダヤ人家庭に生まれたシャガールは、両親からは良しとされないながらも20歳で画家になることを志し、その後、自分の可能性を信じて、フランスのパリへ移ります。パリでは、当時の芸術家たちのたまり場であったラ・リュッシュに住みました。しかし、ここでもシャガールは、ことごとに自分がユダヤ人であることを感じさせられるような辛いめにあいます。青年の芸術家のグループでは、なぜかシャガールの絵だけが隅の一番ひっこんだ暗いところに向けられる。展覧会では、開会一時間で、絵が撤去。

シャガールは考えます。それはきっと、自分がユダヤ人で、祖国を持たないからだ、と。逆境にあつてシャガールは、貧しくてキュウリのかけらをかじりながら、サロンのきらびやかな絵ではなく、市場で働く労働者たちの姿をみて、自分の寝巻を引き裂いてこしらえたキャンバスを前に、フランス絵画と自分の絵を区別している、絶対に越えられないとさえ思う相違点について、現実に見開いて考え抜きます。このとき、シャガールの絵はまったく売れなかった。しかし、『 聖書の絵を描く画家 』として、着実に招かれていくのです。



～ 私を幻想的と呼ばないでほしい。反対に私はリアリストなのだ。私は大地を愛している。 ～

～ 魂のありかたなのだ。文学が不条理であろうとも、最も純粹であると人々にいわれる段階にまで達したのは、魂それ自身によったのだ。 ～

～ 私が語っているのは、古いリアリズムでもなくロマンティズムの象徴主義でもない。神話でもなければ、空想でもない。ではいったい何か。 』（「MA VIE」マルク・シャガール著 三輪福松・村上陽通訳 美術出版社1965）～

1914年、シャガールは27歳。婚約者ベラに会うためにロシアへもどりますが、ロシアへ到着したと同時に第一次世界大戦が勃発します。パリにあった絵は、すべて失いました。

1915年は、ベラと念願の結婚。しかし1917年は、ロシアで革命が起き、シャガールのパスポートは封印されて海外へ出ることができなくなってしまいます。まわりのいたるところで暴動がおこり、小銃戦がはじまって、人々が争い合います。ロシアの軍隊は、敗北のたびに、敗北をユダヤ人のせいになりました。ユダヤ人たちは結局、住んでいた町を棄てざるを得なかったのですね。シャガールはこのような中、ヴィテブスクに『子どもたちのための美術学校』を設立し、彼の情熱を傾けました。しかしシャガールが、いつものように子どもたちの

ためのパンや絵の具を得るために外出しているすきに、美術学校の他の全教授がシャガールを追放する決議を下し、シャガールは追放されます。友人であると思っていた人たちに。どれほどシャガールはショックを受け、悲しかったことでしょうか。

「 ノアやわたしと同じだわ。 」

ええ。その後シャガールは、ヴィテブスクを引き払って、ベラとモスクワへと移ります。モスクワでは、モスクワ議会付属ユダヤ国民劇場の舞台装置のデザインを依頼されます。ユダヤ人であることが、彼をたすけるのですね。そこでシャガールは、2か月のあいだ部外者の立ち入りを禁じて制作にとりかかります。シャガールが描いたのは、革命政府の中央集権的支配ではなく、民族の文化的アイデンティティのほうを訴えた絵でした。しかし、周囲はまったく無理解。シャガールは痛烈な非難を受けます。

1922年、シャガールはリトアニアで行われる展覧会のためにビザの発給を受け、その機にベルリンへと出ます。ベルリンには1年間とどまり、1923年、ベラと娘イダと共にパリへと移りました。そのパリで、シャガールは、人生における決定的な出会いを経験します。

美術商のアンブロワーズ・ヴォラールとの出会いです。

ヴォラールは、ロシアのニコライ・ゴーゴリの小説『死せる魂』の挿絵をシャガールに依頼しました。シャガールは、その

挿絵で、これまでに蓄えてきた力を存分に発揮します。閃光が与えられた、というのでしょうか。それまでの絵画の世界にはなかった、『 隠された喩えに満ちた表現 』を持ち込むのです。

「 聖書表現のこと ？ 」

ええ。これは先ほど申し上げた、聖書ヘブライ語原典の表現世界でしょう。ヴォラールは、シャガールのできあがりを見て、とても驚きました。そして、続いてシャガールに、『 聖書の挿絵 』を描くよう依頼するのです。この依頼が、1931年、シャガールを聖地イスラエルに帰らせる旅へとつながりました。シャガールは、『 わが聖書を目で見、肌で感じようとした。 』と述べ、『 生涯で最も強烈な印象を残した。 』と語った。自らその地へ出向いたことで、何かが与えられたのでしょうか。

悲しい思いでロシアを出てきたシャガールとベラでしたが、フランスの光にあふれた田園風景は、彼らをととも癒しました。

しかし1939年から45年、シャガールが52歳から58歳のとき、ドイツのナチス政権とその協力者は、600万人ものユダヤ人に迫害と殺戮を行うのです。ただ、ユダヤ民族は劣っているから、という理由で。

違いますね。ユダヤ人は『 宇宙には目的があり、人間は神さまから愛されている。 』ということをし、幼いときから母親に教えられて知っている民族です。『 母親から、神の愛について知らされている 』という環境が、どれほど人を成長させる

でしょうか。

ユダヤ人は、人類の文化遺産に大きく貢献しています。哲学者バールーフ・デ・スピノザ、理論物理学者アルベルト・アインシュタイン、物理学者ロバート・オッペンハイマー、数学者ジョン・フォン・ノイマン、指揮者レナード・バーンスタイン、作曲家ファニー・メンデルスゾーン、グスタフ・マーラー、ピアニストのダヴィッド・アシュケナージ、映画監督スティーブン・スピルバーグ、トイザラス創業者チャールズ・ラザラス、ジーンズのリーバイ・ストロース、グーグルのCEOラリー・ページ、スターバックスのCEOハーワード・シュルツ。

しかし1933年、ナチスはマンハイム美術館のシャガールの作品を焼却しました。1935年、シャガールはヴィテブスクを再び見るためにポーランドに滞在しますが、そこでユダヤ人たちが受けている悲惨な現状を目のあたりにし、たいへんなショックを受けます。1937年、50歳のときには迫害から逃れるためにフランスの市民権を得ますが、フランス政府もユダヤ人迫害法を制定します。フランスにいられなくなってしまうのですね。1938年には、自分を認めてくれたヴォラールが亡くなります。1941年、シャガールは迫害から逃れるために、ベラとアメリカへ渡ります。アメリカ到着と同時に、ロシアがドイツ軍に侵入され、生まれた町ヴィテブスクは、もとの形をとどめないほどに破壊されてしまいます。

そして終戦まぎわの1944年、30年あまり連れ添った最愛の妻ベラが、亡命の地アメリカで亡くなられてしまいます。



シャガールは、筆をもつことさえできなくなってしまいました。

1948年、シャガールはイギリスの外交官の娘のヴァージニア・ハガードといっしょに暮らしはじめますが、ヴァージニアとはあまりうまくはいきませんでした。

長い戦争時代が終わり、ヴォラールの亡きあと、ギリシャ人の美術評論家テリアドが、シャガールの前に登場します。彼は亡きヴォラールにかわって『シャガールの版画集の刊行』を実現します。そのことによってシャガールは、ヴェネツィア・ビエンナーレ版画部門大賞を受賞。一等賞をとっちゃうのです。そして、テリアドのすすめで、フランスのヴァンスに邸宅レ・コリーヌを購入。テリアドの家では、3番目の妻となるロシア人のヴァランティーナ・プロドスキーにも出会います。

「 聖書の言葉を描くことが、祝福につながっている？ 」

シャガールの苦難をとおして、ね。

戦争が起きる前に、『 聖書の絵を描く 』ことをシャガールにもたせさせたヴォラールでしょう？ ヴォラールの亡きあと、テリアドが出てくる。シャガールは、想像を絶するような苦難を経験するけれども、戦争が終わると、テリアドがヴォラールのやり残したことを実現し、シャガールは、国際的な評価を得る。加えて、そのテリアドは、絵に本格的に打ち込むための家も紹介してくれる。そこでシャガールは、ベラとのあいだに生まれた娘イダの結婚披露宴を開く。その後テリアドの家では、

3番の伴侶にも出会う。

1952年、シャガールは65歳で、ロシア人のヴァランティナー・ブロドスキーと結婚。フランスのヴァンスで、平和な暮らしをはじめます。あるとき、シャガールは、廃墟となった礼拝堂ノートルダム・デュ・カルベールを発見します。そしてそこで『 聖書の言葉を描き伝えなければ 』という使命を、自分の中に発見するにいたるのです。

「 ユダヤ人としての使命 ？ 」

そうです。 シャガールに神の言葉を伝えるためのすべてが整った、と言ってよいでしょうか。シャガールは、このときから『 聖書の言葉の連作 』をはじめています。ご自身の天命を天命として自覚されたのですね。 絵画 “ 枝 ” は、まさしくそのときに描かれた作品です。シャガールは、どんなふう
にこの絵に取り組まれたのでしょうか。

「 想像するだけでも、うるわしい気持ちになるわ。 」

“ 枝 ” の完成後、シャガールは、ヴァンスからより光の美しい街、サン＝ポール＝ド・ヴァンスの邸宅ラ・コリーヌにヴァランティナーと一緒に移りました。1973年、シャガール86歳の誕生日には、フランスのニースに『 国立マルク・シャガール聖書の言葉美術館 』が誕生。

1977年、90歳で、ナポレオンが制定したフランスの最高勲章レジョン・ドヌール勲章を授与。この年は、聖地エルサレムの名誉市民にもなります。シャガールは、とても嬉しかったことでしょうね。95歳で、ル・セーヨン礼拝堂のステンドグラスを完成。すごいですね。神の祝福のままに描き続けられたのでしょ

う。そして1985年3月28日、ご自宅にて天に召されます。98歳です。

～ ときには自分がよそ者であるかのような、つまり空と大地の間に生まれたとでも言うか、世界が大きな砂漠で、自分の魂は松明のようにそこをさまよっていると思えることもありました。しかしわたしは一生を通じて、この見果てぬ夢に歩調を合わせるように、力の許す限り絵を描いてきました。これらの絵を美術館に置き、人々にある種の精神性、宗教的感情、人生の意味を見出してもらいたいと思います。これらの絵は単にある民族の夢を実現したものではなく、人類全体のそれを表していると思っています。これはわたしとアンブロワーズ・ヴォラールとの出会い、そしてオリエントの旅の結果生まれたものです。フランスに残そうと思ったのは、そこがわたしが二度目に生まれた国のような気がするからです。これらの絵に説明を加えるつもりはありません。作品そのものが語ってくれるでしょう。～ マルク・シャガール「マルクと妻ヴァランティーンによる国立マルク・シャガール聖書の言葉美術館への寄贈作品に寄せてより抜粋1973」





第 二 章

“ 枝 ”



「 ノア ? このファンタスティック・オムレツパフェは、
いろんなフルーツが入っていて、とっても美味しいわね。 」



美味しいですね。なかにお餅もはいつている。わたしはね、
なかにお餅がはいつているお菓子が、大好きなのですよ。

ゼカリア書第3章10節

その日には、と万軍の主は言われる。あなたたちは互いに呼び

かけて、ぶどうといちじくの木陰に招き合う。

「 あっ、野うさぎさんよ！彼らは秋になるとね、道でお月さまを見ているわ。動物たちはいつも森と同じ色をしているから、まったく見分けがつかないわ。森のほうが、彼らと同じ色に変化しているというのかしら。森は本当に彼らのことが好きなの。ここにいと、森の絶対的な意志を感じるわ。 」

森は、彼らのことを愛していると同時に、わたしたちのことをも愛してくださっていますよ。さあ、“ 枝 ” の絵の中に入れていきましょう。



“ 枝 ” は、大きいですね。146センチかける114センチの油絵。いちめんシャガール・ブルー。とてもきれいだ。

「 きれいだわ。 湯里の森も、太陽の舟と月の舟が入れ替わる朝と夜に、シャガール・ブルーに染まるわ。 」

くかさん、たしかあなたは、ロシアで暮らしたことがおありでしたね。ロシアの人たちは、よく森の中を散歩するでしょう。シャガール・ブルーは、シャガールそのものの。いいブルーです。

「 絵筆の跡がとてもリアルに、生き生きしているわ。ああ、どうでしょう。とてもドキドキしてきたわ。 」

見てください。『 美しい白いドレスに身を包んだ花嫁さんと花婿さん 』が、河の流れの真ん中に、大きく立っています。ふたりは、ちょうどわたしたちとおなじ背丈だ。この河の流れは、ただの河の流れではないでしょう。花嫁さんは、なんて愛らしいのでしょうか。新郎は、シャガールご自身でしょうか。ベラさんの本にもでてくる言葉ですが、花嫁はユダヤの花嫁？ユダヤ教の伝承では『 イスラエルは、神の花嫁 』という言葉があります。花嫁が描かれていると、この言葉を思い出しますね。

上を見てください。光の中に、『 ショファール、雄羊の角笛を吹いている人 』がいます。ユダヤ式の結婚式となると、ショファールを吹いているのは、花婿の父ということになるのでしょうか。今、結婚のときがはじまる！『 新しいときのはじまり 』を告げています。幸せな雰囲気になり溢れていますね。

“ 枝 ” は、日本でとても人気がある絵なのです。画集の表紙になったり、展覧会のポスターになったりしています。

「 すべてがとても、きれいだわ。 」

『 ショファール、雄羊の角笛を吹き鳴らす 』というのはね、ユダヤ教の伝承においては『 新しいときのはじまり 』、

つまり、『 待望された神の国の実現、神の救済がはじまる 』
ということを告げる知らせの意味があります。ユダヤの新年の
儀式でもショファールが吹き鳴らされますが、いわれはね、
『 ユダヤ人たちに、聖書に記されている創世記第 22 章ので
きごとを思い起させるように 』吹いているわけです。

「 創世記 22 章？ ノア？ わたしは 22 に、素敵なご縁が
あってよ。 」

創世記第 22 章はね、神さまが『 アブラハムよ。 』と呼
びかけて、アブラハムが『はい。』と答えると、神さまは命じら
れます。『 あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れ
て、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、
彼を焼き尽くすささげものとしてささげなさい。 』アブラハ
ムは、神に命じられた場所へ着くと、そこに祭壇を築き、息子
イサクを縛って祭壇のたきぎの上にのせ、刃物をとって息子を
はかろうとします。がそのとき主の御使いがアブラハムに呼び
かけて言います。『 その子に手をくだすな。何もしてはならな
い。あなたが神を畏れる者であることが、今、わかったからだ。
あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげるこ
とを惜しまなかった。 』そしてアブラハムが目を凝らして見
回すと、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。ア
ブラハムは雄羊をつかまえて、息子のかわりに雄羊を焼き尽く
すささげものとしてささげるのです。主の御使いは、再び天か

らアブラハムに呼びかけて言います。『 わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこのことを行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかったのです、あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取る。地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。 』この言葉です。

シャガールが描いたシヨファールのしるしは、ユダヤ民族たちに、自分たちの原点のできごとである創世記第22章の神の言葉に立ち返れ、と示しているようにも受けとれます。

光の中には 『 神とのとりなしの子羊 』 もいます。角があることから、これは雄羊でしょう。雌羊は、角はあっても小さいということですから。これで創世記22章のできごととの関連がさらに明確になりましたね。



光の下には『 ヴァイオリン 』が小さく描かれています。これは、シャガールのヌーシュ叔父さんのヴァイオリンでしょうか？ ヴィテブスクで暮らした頃のユダヤ人たちを思い起こさせます。ヴァイオリンは、シャガールの絵にたびたび登場するモチーフですね。

枝に鮮やかに、赤い花が咲いています。

手前には、花瓶に挿した『 赤い花束 』が飾られている。脇に添えられたお皿にはフルーツのような食べ物が盛られています。ベラさんが、彼女の家から運んできたものでしょうか。

「ベラさんは、お亡くなりになる直前のシャガールのお誕生日に ～ 誕生日 あなたののために ～ と題した作品を書いてシャガールに贈っているわ。花束をもって、はじめて橋の下のシャガールのお部屋をおとずれた日のことよ。愛に満ちた文章でね、とてもせつないわ。花束が描かれていると、ベラさんの愛を思い出すわ。」

そうですね。『ベラの言葉は、花の魔法の香り』と、シャガールは言っていましたね。彼女の愛は、彼の芸術の大きな力でした。

ハトが木の中で、葉をくわえています。『葉をくわえるハト』は、ノアの箱舟を思い出させますね。新しい時代が来ることを告げ知らせる『希望』のしるしです。

河のそばには、塔が建っています。パリのエッフェル塔でしょうか。シャガールはパリを『第2のヴィテブスク』と呼んでいましたね。

さあ、シャガールは、これらのモチーフ、象徴と呼ばれるしるしを絵に用いて“枝”を描きました。これらのモチーフは、ランダムに用いられたわけではありません。とても意識的に用いられている、と言ってよいでしょう。

“枝”はヘブライ語で『ツェマーク』。キング・ジェームス・バージョン聖書のゼカリヤ書第6章12節の“枝”は、大文字であらわされています。

「ノアは、キング・ジェームス・バージョンが、お好きね。ユニコーンがでてきますものね。」

ノアが、おかわりのティーをコポコポとカップへと注いだ。わたしはすかさず、わたしの分のお砂糖とミルクをノアのカップにポトンと落とす。時間と空間を超えて迎えあっている。なにげないけれど、天使な時間。

スコットランド初代のキング・ジェームス1世は、ユニコーンをスコットランド王室の紋章と決めました。ユニコーンは、モーセが生涯を終えるに先だって、イスラエルの人々に与えた祝福の言葉である申命記第33章17節に、「彼は威光に満ちた雄牛の初子。彼の角は野牛の角。彼は諸国の民を角で突き倒し、地の果てにまで進み行く。見よ、エフライムの幾万の軍勢を。見よ、マナセの幾千の軍勢を。』とその強さがあらわされています。

スコットランドのキング・ジェームス3世は、ユニコーンを刻んだ金貨を発行いたしました。そのあとのキング・ジェームス6世は、母が側近にたくした遺言どおりに、イングランドの女王と結婚して王位を継承し、スコットランドとイングランドの合同国家をつくりあげました。キング・ジェームス1世となった彼が、合同国家を治めるためにつくった合同の聖書が、キ

ング・ジェームス・バージョン、1611年です。

1620年、イギリス国教会から追い出されたピューリタンの人たちがいました。彼らは新天地を求めてメイフラワー号に乗って、アメリカのマサチューセッツ州に上陸いたしました。手にしていたのは、キング・ジェームス・バージョン聖書です。

マサチューセッツ州は、あなたのお子さまが在籍している北海道大学クラーク博士の出身地ですね。プレジデント・クラークは、聖書の精神を誓約書にして学生たちに示しましたね。

アメリカ合衆国第16代大統領エイブラハム・リンカーンは、1861年の大統領就任式でキング・ジェームス・バージョンの聖書に手を置いて宣誓しました。リンカーンは、家にあつたわずかな本の中からキング・ジェームス・バージョンの聖書を読み、教養を身につけていったと言われていています。リンカーンの話す英語は、キング・ジェームス・バージョンの英語でした。

『 われわれは敵ではなく、友人である。敵であつてはならない。記憶という神秘の弦が、我々の本来のよりよき守護天使によって、必ずや再びつま弾かれるときがおとずれるであろう。 』

平和を願う彼の美しい演説には、誰もが魅了されました。

1863年のゲティスバーク演説では、リンカーンは原稿に予定されていないひとつの言葉を付け加えました。それは“ under God ”という言葉でした。



That this nation, under God, shall have new birth of freedom, and that the government of the people, by the people, and for the people, shall not perish from the earth.

『 戦死者の死を決して無駄にしないために、この国に “ 神の下で ” 自由の新しい誕生を迎えさせるために、人民の人民による人民のための政治を決してなくさないために。 』

Shall not は、モーセの十戒の、神さまご自身の、特別に厳しいご表現です。おっと、いけない！ “ 枝 ” の話しが飛んでしまいました。

「 大丈夫よ、ノア。きっと天使がおしゃべりになっているのよ。それにリンカーンさんは、“ 枝 ” に関係があるのかもしれないわ。」

そうですか、いや失礼いたしました。

聖書の中の “ 枝 ” についてご紹介いたしましょう。

イザヤ書 第4章2節

その日には、イスラエルの生き残った者にとって主の若枝は、麗しさとなり、栄光となる。この地の結んだ実は誇りとなり、輝きとなる。

エレミア書 第23章5節

見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。王は治め、栄え、この国に正義と恵みの業を行う。

エレミア書 第33章15節

その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。

ゼカリア書 第3章8節

大祭司ヨシュアよ。あなたの前に座す同僚たちと共に聞け。あなたたちはしるしとなるべき人々である。わたしは、今や若枝であるわが僕を来させる。

「ノア？ 神さまは“枝”のことを、愛しておられるのね！」

そうです。若枝であるわがしもべ。わがしもべは、苦難のしもべでもある。わたしがちょうど40年前に、スコットランドから日本に戻ってきたときに、むこうから送った荷物の箱の真ん中が、何かナイフのようなもので突き刺されたようにして、穴があいて届きました。おそらく税関の検査でそうしたのでしょう。やむなく箱を開けました。するとね、一番上にのせていたわたしが一番大切にしていた「わがしもべ」という本だけに

穴があいていたのです。驚きましたよ。あとは、全部無事です。

わたしはそのとき、『 さすが、わがしもべだ。 』と思ったのです。

「 なぜ？ 神のしもべなら、おまもりいただけるのではないの？」

違うのですよ。わがしもべとはね、選ばれた神のしもべです。神のしもべであるからには、苦難を受ける。神さまの道具としてつかわれるように磨かれるというのかな、鍛えられる。

苦しむために選ばれた。しかし同時に神に愛されている、“ 神の花嫁 ” でもあるのです。

「 神さまは、愛しておられるしもべとなるお方を、“ 枝 ” と呼ばれるのね。“ 神の花嫁 ” とは、素晴らしい言葉だわ。 」

ゼカリア書第4章12節から14節

わたしは重ねて彼に尋ねた。「その2本のオリーブの木の枝先は何ですか。それは二本の金の管によって、そこから油を注ぎ出しています。」彼がわたしに、「これが何か分からないのか」と言ったので、わたしは「主よ、分かりません」と答えると、彼は、「これは全地の主の御前に立つ、二人の油注がれた人たちである」と言った。

“ 枝 ” は 『 全地の主の御前に立つ、二人の油注がれた人たちである。 』 “ 油注がれた人 ” とは、聖書では 『 救世主 』 のことです。

「 数学的に考えるのね。パレエもそうだけれど数学的に考えると謎が解けて、いかにそのステップが美しいかがわかるわ。 」

ゼカリア書 第6章12節

宣言しなさい。万軍の主はこう言われる。

見よ、これが「若枝」という名の人である。

その足元から若枝が萌えいでる。彼は主の神殿を建て直す。

『 見よ 』 は、聖書の中では特別な箇所。神のみわざが行われるとき。ヘブライ語では 『 ヒンネエ 』。

『 若枝という名の人 』 は、ヘブライ語では 『 イーツェマーク 』。 『 イーツェマーク 』 は、ひとつの言葉です。離してはいけない！ そこに神の秘密が隠されているからです。

ふたりの後ろには 『 魚 』 が描かれています。天使が見つめている。『 魚 』 は、救世主、メシアのしるしです。魚の記号は、初期のキリスト教の象徴でもありました。

1947年、シャガールがちょうど60歳のときに、20世紀史上最大の考古学的発見と言われる、ヘブライ語聖書の最古の写本が、死海のほとりの洞窟から羊飼いの少年によって発見されました。写本を書いていた人たちは、エッセネ派といわれ

るユダヤ教のひとつの流れの、聖書にとても忠実な人たちのグループです。紀元前250年頃から紀元前70年頃、エッセネ派の人たちは俗世間を離れて、共同で純粹に清い瞑想生活を送っていました。しかし紀元前63年、ローマ軍は12000人以上のユダヤ人を虐殺します。エッセネ派の人たちは、自分たちの命の危険がさしせまったとき、『自分たちの信仰を後世に伝え残す』行いをとりました。必死の想いであったことでしょう。彼らは聖書の写本を壺の中に入れて、洞窟に隠しました。

それから約2000年経って我々の前にあらわれた壺の中の文書は、これまでの人々の聖書解釈を大きく変えました。オックスフォードの考古学ガイドは、『死海文書によってわかったことは、2000年前のユダヤ教文書は、』聖書のことですね、『現代の学者たちの想像以上に豊富なバリエーションをもち、内容も非常に多様かつ流動的である。』と述べています。

「 シャガールの絵のことだわ。 」

死海文書には、メシアはふたり、ということが記されています。ユダヤ人たちには、『強いメシア待望』がある。

ふたりのメシアといえば、

『 モーセとアロン 』

『 ヨシュアとゼルバベル 』

『 バプテスマのヨハネとイエス 』



カトリックの倫理において最も尊敬される人物は、独身主義者、すなわち聖職者か修道女です。しかし、ユダヤ教が理想とするところは、『ふたりの結婚』です。ユダヤ教の伝承では、結婚は義務であり、それによって人間的な充足の道へと歩んでいくことができる、とされています。

ゼカリア書 第9章16節17節

彼らの神なる主は、その日、彼らを救い、その民を羊のように養われる。彼らは王冠の宝石のように、主の土地の上で高貴な光を放つ。それはなんと美しいことか。なんと輝かしいことか。穀物は若者を、新しいぶどう酒はおとめを榮えさせる。

「 “ 枝 ” のふたりのことを言っているようだわ。 」

結婚で目指すべき理想は、完全な調和です。

調和のとれた家庭には、神が存在し続けてくださるのです。

「 “ 枝 ” のふたりがやるべきこと ? 」

“ YES ! ”

「 ノア ? 今、 “ YES ! ” って叫んだ ? 」

エデンです。びっくりしましたね。

雄羊の角笛が高らかに吹き鳴らされ、とりなしの子羊が捧げられた光の中に、大きく、“ 枝 ” となって立つふたり。ふたりの陰では『 魚 』が飛び跳ねている。すごい表現ですね。ふたりの結婚、ふたりの愛こそが、この世の平和のはじまりとなる。

木々や花々や鳥たちはおおいに喜び、飛びまわって『 希望 』を告げています。天使たちは、“ 枝 ” となったふたりの結婚を祝福していると同時に、ふたりのこれからの“ 枝 ” としての役割をも祝福してくれています。シャガールの、愛にあふれたみごとな聖書解釈です。



シャガールは、聖書の言葉の“ 枝 ”を、教義上の括弧の枠には入ってはいないけれども、神学的には理由づけられる広い意味において堂々と表現しているでしょう？

“ 枝 ”の絵は、わたしたちに大きな勇気と希望を与えてくれます。“ 枝 ”としての、シャガールご自身の自覚や、自意識をも感じることができますね。

聖書の言葉というのは、その人自身の言葉で語られていること以外は聞こえないという内的な意味をもちますが、“ 枝 ”は、あなたに聞こえましたでしょうか。

わたしたちがこの美しい星・地球で生きていくことができるのは、永遠ではありません。つかのまのこの美しいときを、どのようにあなたは生きていかれますか。争ったり、相手を非難したり、生まれてきたことを嘆くのでしょうか。

天の御意志によって、わたしたちはこんなにも美しい星に降り立ったのですから、感謝して、互いに尊重し合って、たすけあって、純粋な気持ちで目の前にいる人を、ただ愛するという以外に何があるのでしょうか。

わたしたちは、“ 枝 ”となって、小さなキリストとなって、生きていくことができる。

シャガールは、“ 枝 ”の絵をとおして、聖書が語っているメッセージに耳を傾けてほしい、と願われていることでしょう。

「 ありがとう、ノア。 」



“ 枝 ” の絵の制作年数は6年。シャガールの、導きに対する熟考と献身の上に描かれた一枚、と言ってよいでしょう。

では最後に、“ 枝 ” を完成した年に述べたシャガールの言葉を聞いて、きょうは、お別れといたしましょうか。

あなたとあなたのご家族の方々に、どうぞたくさんのご祝福がありますように。



ごきげんよう。さようなら。

「 待って！ ノア。 帽子を忘れてるわ。 」





シャガールの言葉

1962年 エルサレムで

わたしの生まれた町ヴィテブスクと、幾千年ものあいだ続いている追放との空気や大地が、エルサレムの地の空気や大地において人つとなりますことは、どのようにしてなされえましょうか。

ただわたしの両手がこれらの色彩で、制作においてみちびくだけではなく、わたしの両親と他の多くの人びとの貧しい両手がみちびくののだということを、どのようにして知りえたでありますでしょうか。

彼らもまた、わたしの人生に関与するのを望むかのように、彼らがわたしの背後に集まり、寡黙な唇と閉じた眼でささやいていることを、どのようにして知りえたでありますでしょうか。

わたしが宇宙の永遠なる循環のことをおもいますとき、わたしたちの時代が宇宙に直面することを拒否したり、その表皮のわずかな部分への眼差しで甘んじれば甘んじるほど、わたしたちは不安になりますが、それだけいっそう一般的な時流に逆らいたいとおもうのです。

わたしたちの人生の道が、永遠にして短いことは承知しております。こうした道を愛で進むのであって、わたしは憎しみで



進むのではないことを学んだのでした。

幾年も前のことですが、聖書のテーマのエッチングを準備するために初めて聖書の土壌に足をふみ入れましたとき、以上のようなすべてのことについて考えざるをえませんでした。

わたしは ソドムの山とネゲブの荒野を眼前にしたのです。

砂漠の峡谷から、乾燥したパンの色に似た黄色い衣をまとった預言者をみました。

かつて語られた偉大な多くの言葉を聞きました。

そしてこれらの言葉が、ユダヤ民族、あらゆる民族の中で聖書の愛や友情や平和のことを常に夢みてきたあの民族に、わたしのささやかな贈り物をも提供するように、わたしを勇気づけてくれたのです。

マルク・シャガール

シャガールで読む旧約聖書 ハンス・マルチン・ロータムント著
佃堅輔・佐々木滋訳 株式会社 図書新聞発行 2008







マザーのあとがき

どんなにたくさんのことを
どんなに偉大なことをしたのか、ではありません。
たいせつなのは、
どれほどの愛で、どれほどの愛をもって
あなたがそれをおこなったか、ということです。

マザー・テレサ



Grandmother 河西けい

祖母けいは、マザーと同じ明治43年の、シャガールと同じ7月のお生まれです。祖母はマザーよりちょうど10年永く生き、シャガールと同じ3月に、享年98で天に召されました。

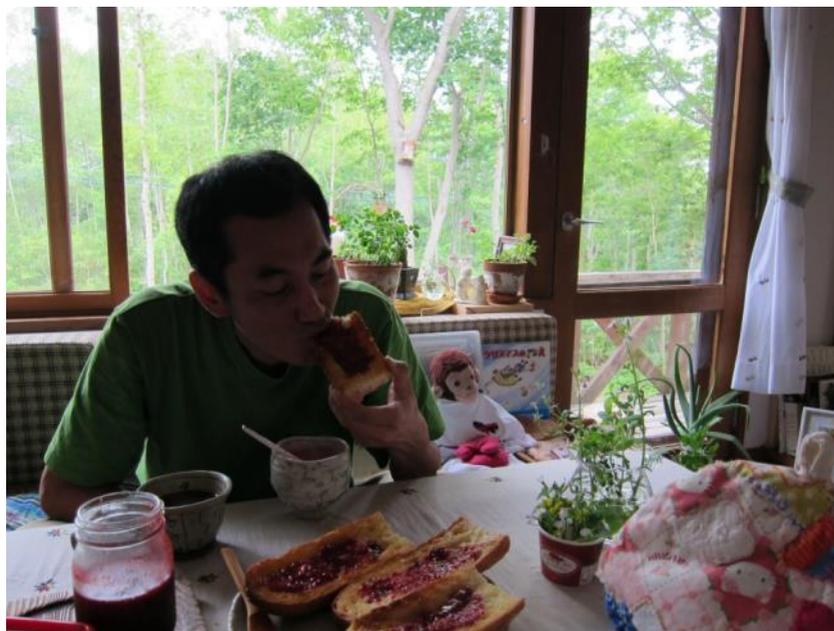
わたくしが幼い頃、原宿からかよった東京の国分寺の祖母の家には、いつもお茶の時間があり、大人たちはいつも楽しそうでした。小さな庭があり、花たちがおしゃべりをして、虫が遊びに来る小さな縁側がありました。祖母は、わたくしに人生を決定づける本を贈ってください、色々なお話しをお聞かせください、デパートやぜんざい屋さんへ連れて行ってくれました。祖母はあんみつを、わたくしはぜんざいをいただきました。ふたりでハサミを持っての立川花泥棒散歩は、愉快でたまりませんでした。祖母は、自分の意識が続くその淵まで、わたくしにおこづかいの入った、愛いっぱいの手紙を送り続けてくださいました。それから、祖母からの便りが途絶え、ひとり荒野に立たされることになった時代、わたくしはただ黙って、祖母が贈ってくれた存分な贈りもので、自分の『ファンタスティック王国』を築きました。わたくしは王国に対し、どんなことがあってもここを守り抜きます。と誓い、王国は、やがてどんなことでも解決できる力を持ちました。幾度となく、わたくしを絶体絶命の危機から救ってくれました。今、王国はくつろぎのときを迎え、その中で育ったわたくしの子どもたちが王国を引き継ごうとしてくれています。おばあちゃん、ありがとう。もう少しバレーがんばるから、共に楽しんでくださいな。

写真／「武徳とけいと子どもたち」今岡真致編著 2009



家族の紹介)

パートナー 佐藤正晃



湯里の自宅にて、いただいたラズベリージャムの朝食のとき。

彼は、歴史的人物である「妙好人・因幡の源左さま」の玄孫。
わたくしたちは出会ってから一度も言い争ったり、けんかをしたり、
互いの悪口をかけた言い合ったりしたことはありません。
ふたりの間に生ずる平和。(ゼカリア書)

宝物 幸若完壮（息子）



いとこのさなちゃんと。小樽市祝津の海にて。

宝物 幸若輝羽（娘）



踊ってるの？

～ 参 考 文 献 ～

THE BIBLE 新共同訳 日本聖書協会 1987, 1988

MARC CHAGALL UND DIE BIBLE ハンス・マルチン・ロータームント著
佃堅輔・佐々木滋訳 図書新聞 2008

MAVIE マルク・シャガール著
三輪福松・村上陽通訳 美術出版社 1965

CHAGALL ダニエル・マルシェッソー著
高階秀爾監修 田辺希久子・村上尚子訳 創元社 1999

JUDAISM FOR BEGINNERS チャーレス・スズラックマン著
中道久純訳 現代書館 2006

～ マルク・シャガール “ 枝 ” ～

三重県立美術館所蔵
1956~62年 油彩 カンヴァス 146cm*114cm

“ 枝 ” の本誌掲載は、著作権申請に費用が多くかかってしまうことからやむをえずあきらめました。ぜひ美術館をご覧ください。素晴らしい絵です。



ヤコブの梯子の天使たちが運んできてくれたお話し
マルク・シャガール 枝

監修 ノアック・ケーン

ノアは神さまの秘密。いつもポケットにしまっておきたいお方。

著者 幸 若 久 佳

星が降った日に生まれる。河西けいの孫で、天理教北銀山分教会創始者である栄治とはじめての女性天皇である第44代元正天皇が名僧・泰澄に命じて西暦717年に建立した岐阜県美濃市洲原神社の宮司の娘トヲとの玄孫。東京都渋谷区原宿竹下通り出身。

2013年春より蘭越町湯里に在住。

写真 北海道磯谷郡蘭越町湯里

撮影 幸 若 久 佳

佐 藤 正 晃

画 幸 若 久 佳



Marc Chagall `La Branch`

発行 2014年11月1日

発行所 らんこし作家デビュープロジェクト

Text & Artwork Copyright© Suikinkutsu 2014



☆

この原稿をすべて書き終えた夜、わたくしは祖母けいの夢をみました。ふたりで並んで座って電車に乗っていて、あるところで止まるとわたくしは降ろされ、祖母はきちんと座ったまま、ただにっこりとだけされて、電車は祖母を乗せ、天のほうへとむかわれました。(久佳)